



2019 年度事業計画



学校法人 甲南女子学園



I. 本年度方針	…1	(2) 広報活動	…7
II. 2019 年度の主要な取組み	…1	5. 環境整備	…7
1. 第4次中期計画について	…1	(1) キャンパスの整備	…7
2. 大学ガバナンス改革について	…1	(2) 情報インフラ整備	…7
3. 国際学部の設置について	…1	6. 地域連携・社会貢献活動	…8
4. 甲南女子学園創立 100 周年記念事業の推進について	…1	(1) 地域連携・貢献活動の推進	…8
III. 大学・大学院	…2	(2) 産官学連携	…8
1. 教育体制	…2	(3) 高大連携	…8
(1) 学部教育	…2	7. 管理運営	…8
(2) 大学院教育	…3	(1) 学園の管理運営体制	…8
(3) 学修支援	…3	(2) 職員人事制度	…8
(4) FD・SD 活動	…4	(3) 労働環境の維持向上	…8
(5) 国際交流の推進	…4	IV. 中学校・高等学校	…9
(6) キャリア教育	…5	1. 教育課程	…9
2. 研究体制	…5	2. 授業力向上	…9
(1) 学内の各種研究助成による研究支援	…5	3. 総合学習	…10
(2) その他の研究助成	…6	4. 生徒指導	…10
3. 学生支援活動	…6	5. 国際交流	…10
(1) 学生生活支援	…6	6. 進路指導	…11
(2) キャリア支援	…6	7. 生徒募集対策	…11
4. 学生募集	…7	8. 施設・設備	…11
(1) 学生募集活動	…7		



I. 本年度方針

甲南女子学園は 2020 年に創立 100 周年を迎える。2019 年度はあらためて「建学の理念」と「建学の精神」に立ち返りながら次の 100 年に向けて教学改革を実践する。そして社会に貢献する高い志を持つ学生・生徒を育て、社会的評価・ブランド力を向上させていく。

大学においては中央教育審議会答申「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」を視野に教学改革を進めるとともに国際学部設置を目指す。

2019 年度は第 4 次中期計画の 2 年目にあたり、学生・生徒の価値創造と成長を生み出す教育の質向上を追求する。また、中高大の連携をさらに強めながら、着実な入学者獲得戦略に立脚した自律的健全経営を基盤に、教育の質的向上で社会の要請にこたえていく。

この目標達成のために、教職員全員の意識改革により「変わる、変える」を文化としながら、学生に新たな価値を提供する体制を整備する。

II. 2019 年度の主要な取組み

1. 第 4 次中期計画について

- 「教育で選ばれる大学」を基本方針として、学生の成長実感の可視化を実現する。
- コアとなる各学科の学びの計画を推進し、教育の質向上に取り組む。
- 数値で表される指標をチェックすることで本学の立ち位置、取り巻く環境の変化、各推進テーマの達成具合等を確認する。

2. 大学ガバナンス改革について

- 学長、学部長及び学科長が連携し、適切な意思決定プロセスの基で、学長がリーダーシップを発揮できる体制強化を行う。

- 学長の業績を評価する制度を検討し導入する。

3. 国際学部の設置について

- 文学部英語文化学科及び多文化コミュニケーション学科の組織変更を行い 2020 年に国際学部(国際英語学科、多文化コミュニケーション学科)として開設する。
- 希望する全ての学生が参加できる留学制度を整備する。
- 国内外のフィールドワーク、海外インターシップ等、多様なプログラムを用意し、グローバルなキャリアを実現できるようキャリア形成を支援する。



4. 甲南女子学園創立 100 周年記念事業の推進について

- 大学キャンパスの正門拡幅・歩道整備や中高グラウンドの人工芝化構想の具現化を目指す。
- 村野藤吾による甲南女子中高校舎の建築群に関する登録有形文化財指定申請を行う。
- 修学支援事業として奨学金を拡充する。
- 海外名門大学との協定締結を目指す。
- ブランディング活動として 100 周年記念 website 充実・記念誌編纂・記念公演会を推進する。
- 学園創立 100 周年募金の更なる進捗に取り組む。





Ⅲ. 大学・大学院

1. 教育体制

(1) 学部教育

i) 文学部

- 人間そのものを総合的に理解することが文学部の教育目的である。多様な文化に関する知識、ならびにグローバルマインドを持った広い視野の獲得、さらには、ねばり強い思考力や能動的な行動力の育成を推進する。
- 文学部は主体的な学びの姿勢と国際的視野の獲得を目標に、学修成果の可視化を積極的に進め、教育の質的充実を目指す。
- 2020 年度より文学部を改組して国際学部を新たに開設するにあたり、既存の文学部についても社会のニーズに適応した教育内容に見直し、一層の活性化を図っていく。

ii) 人間科学部

- 人間という複雑で多様な存在を学びの対象として、文理融合の質の高い学際的教養教育を推進する。
- 心理学科では、公認心理師資格の取得に対応した授業・実習を充実する。
- 総合子ども学科では、高い教育力・実践力を身につけた保育士、幼稚園教諭、小学校教諭を養成する。
- 文化社会学科では、女子大ならではの社会学の独創性の構築と社会に生きる知性を涵養する。
- 生活環境学科では、持続可能な社会において求められる汎用性の高い生活スキルの育成とそのために必要な学習環境の改善に取り組む。

iii) 看護リハビリテーション学部

- 学部においては、多職種連携教育(IPE:Inter-professional education)を推進する。
- 看護学科と理学療法学科のみならず医療栄養学部や神戸薬科大学との合同授業実施を目指し、FD 研修を通し教員間での教育内容の共有を図る。
- 看護学科は、看護実践力修得に向けシミュレーションを活用した演習やアクティブ・ラーニング(※)、教員の専門分野を越えた協働的演習展開、国際力強化科目の遂行を目指す。
- 理学療法学科は、臨床実習指導強化や、学科の特色であるウイメンズヘルスやスポーツリハビリに関する教育の充実に取り組む。
- 指定規則変更に伴うカリキュラム改正や主たる実習施設の開拓を行う。

(※)アクティブ・ラーニング:「学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る」学修(能動的学修)のこと。具体的には、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワークなどをいう。新・学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」という表現を用いている。

iv) 医療栄養学部

- 国家試験を見据えて学生の理解度を深め、医療栄養の学びから管理栄養士として幅広い社会のニーズに対応するためのスキルの獲得を目指す。
- 学生が体系的に学修できるよう教員間の情報共有、相互による授業参観など学部内のFD 活動も活性化させる。
- 看護リハビリテーション学部との連携により、多職種の医療スタッフと協働するための知識・技術の習得と、チーム力の醸成に注力する。



(2) 大学院教育

i) 人文科学総合研究科

- 高度な専門教育・研究の深化に努めながら、全ての専攻コースでの定員充足を目指す。
- より多くの人が学びやすい環境づくりや効率的な募集力強化策を検討する。
- 臨床心理学コースでは、新たな国家資格である「公認心理師」の受験資格が得られるよう、実験・実習環境の整備充実を図る。

ii) 看護学研究科

[博士前期課程]

- 生命や人権の尊厳を深く理解し、看護ケアを支える哲学的基盤をもって、対象となる人々の生活の質向上を図る。
- 豊かな人間性と倫理観を兼ね備えた質の高い教育・研究者ならびに高度な看護実践者を育成する。

[博士後期課程]

- 豊かな専門的学識やグローバルな視点及び高度な教育能力・研究能力を培うことで、看護学教育の質向上に貢献できる力を有した看護教育者、及び自律(自立)した看護研究者、看護管理者を育成する。
- 博士前期課程・後期課程の一貫性が担保できるよう、専攻分野の見直しを行う。

(3) 学修支援

i) カリキュラム体系

- 入学から卒業まで体系的な学びが提供できるよう、カリキュラムマップやカリキュラムツリー等の整備を行う。
- ディプロマ・ポリシーで定義する4項目「知識・理解 汎用性技能 態度・指向性 総合的な学習経験と創造的思考力」及び21世紀を生き抜く力として求められる「基礎力・思考力・実践力」の学修成果を可視化する。

ii) アセスメント・テストの活用

- 教育力及び教育の質の向上に至るPDCAサイクルの実現を目的として、各部局やFD委員会との連携を強化する。
- アセスメント・テストの更に効果的な実施を検討し、そこで得たエビデンスと成績評価や満足度調査の結果等の学内諸データと連結させることにより、学習成果の明確化に取り組む。

iii) コモンルーム

- キャンパスにおける日常生活の中で、学生と学生、学生と教員、学生と職員が相互に学修し、社会人としての基礎力を身につけ、学科教育の理想の実現と学生の更なる帰属意識を醸成する場にするとともに、学生の主体性、コミュニケーション能力、発信力の養成のための学修・生活スペースとして、教職協働で整備・活用を推進する。
- 2020年度の国際学部の開設に向けて、国際英語学科及び多文化コミュニケーション学科の学生の学修動機を高める場にするとともに、専門教育と連動した学びの場として新たに整備していく。

iv) 教育イノベーションプロジェクト

- 2018年度は教職員から14のプロジェクト申請があり、採択したプロジェクトを2019年度に推進していく。

(4)FD・SD活動

[FD](=Faculty Development、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組)

- 授業公開、FD講演会、新任教員向けパンフレット作成等を有効に活用し、学外で実施される研修会への参加を呼び掛け、授業改善のための取組を実践する。
- 授業評価アンケートについては、その結果に関して、学生へのフィードバックを行うことにより、教員の教育力及び本学の教育の質の向上を促進する。

[SD](=Staff Development、教職員が職能を改善し向上させるための組織的な取組)

- 必要な知識・技能の習得や能力・資質の向上を図るため、以下を目的とした研修の機会を設ける。
- ①3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証に関するもの
- ②教学マネジメントに関わる専門的職員の育成に関するもの
- ③大学改革に関するもの
- ④学生の厚生補導に関するもの
- ⑤業務領域の知見の獲得を目的とするもの(総務、財務、人事、企画、教務、研究等)
- 事務職員について、期待する職員像を明確にし、役職や階層に応じた研修体系の整備を進め、職能開発に取り組む。

(5)国際交流の推進

- 9か国(※)ある提携大学と、相互の信頼をもとに友好関係を結び、引き続き学生の派遣および受入を行う。
- 語学習得だけを目的とせず、グローバルな視点を育成するため、社会活動や職業体験にも重点を置いた全学対象のプログラムを提供する。
- 2020年度実施に向けた新規の海外協定校の開拓を目指す。

➤ 「安心・安全な留学」を掲げ、海外派遣中の学生の危機管理を徹底する。

(※)協定校のある9か国:フランス、韓国、中国、アメリカ、イギリス、カナダ、アイルランド、NZ、インドネシア

【長期派遣】

種類	派遣国	留学先・コース名	期間	時期
交換留学	フランス	パリ第7大学	6ヶ月/1年	後期出発
	韓国	淑明女子大学校	4ヶ月/10ヶ月	前・後期出発
		誠信女子大学校		
中国	天津外国語大学	5ヶ月/11ヶ月	前・後期出発	
認定留学	アメリカ	西伊利ノイ WESL	4ヶ月/11ヶ月	後期出発
	カナダ	リジャイ大学 ESL	7ヶ月/11ヶ月	後期出発
	フランス	ナント大学 SUL	7ヶ月/11ヶ月	後期出発
	イギリス	リーズ大学 ランゲージセンター	5ヶ月/10ヶ月	前期出発
	アイルランド	ヨーク大学 ランゲージセンター	7ヶ月	後期出発
	ニュージーランド	CCEL クライストチャーチ校	6ヶ月/1年	後期出発
		ウェリントン・ヴィクトリア大学		前期出発
	韓国	淑明女子大学校国際言語教育院	6ヶ月/1年	前・後期出発
	中国	天津外国語大学国際交流学院	5ヶ月/11ヶ月	前・後期出発
復旦大学 国際文化交流学院		前・後期出発		
インドネシア	ガジャマダ大学 INCULS	5ヶ月/11ヶ月	後期出発	

※上記のほか、短期派遣として海外演習(語学研修)、スタディーツアー、海外実務研修等を実施。

(6) キャリア教育

i) 文学部・人間科学部

- 学生一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、職業観・勤労観の醸成に必要な基礎的・汎用的能力といわれる「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の育成を俯瞰し、現在 8 科目あるキャリア関連科目の見直しを進める。
- 資格取得は、現在のサポート状況を分析することにより、学生のキャリア形成に必要な資格の取得が推進できる体制を整える。
- プロジェクト型学習として「Learning Assistant(LA)」と呼ばれる上級生が下級生を牽引する学びの仕組みを取り入れた「初年次リーダーシップ科目」を推進する

ii) 人間科学部総合子ども学科

- 公立幼保採用試験対策として、3 年次、4 年次を対象とした模擬試験を実施する。
- 小学校教員採用試験対策としては、春、夏に対策講座を実施する。
- 保育所、幼稚園、小学校、子ども関連企業に勤める卒業生を招き、仕事内容や就職に向けての心構えなどについて話を聞く機会を複数回設ける。
- 実践力向上を図るため、実習事前指導の一環として近隣の小学校、幼稚園、保育園での観察実習を行う。

iii) 看護リハビリテーション学部

[看護学科]

- 将来像を描けるように卒業生や現任者をモデルとして提示しイメージ化を促す支援、キャリアプランワークシートを用いた個別支援、学内就職説明会の開催、国家試験対策などを行う。

- 品格ある女性専門職者として、国際的なキャリアを探求する。
- 看護学実習ポートフォリオを活用し、就職後の継続的な看護実践能力の向上につなげる。

[理学療法学科]

- 基本的理学療法の実践能力の修得を目指す。
- 臨床実習指導強化施設、アクティブ・ラーニング、ポートフォリオをより充実・利用した教育を実践する。
- 卒業生に対しても多様なキャリア形成、認定・専門理学療法士取得などキャリア支援を行う。
- 国家試験合格率向上のために、CBT(Computer-Based Testing)を利用した効果的な学習システムを構築する。

iv) 医療栄養学部医療栄養学科

- 多様な現場で活躍する管理栄養士の業務・体験談を聴講することで、様々な職種の理解と資格取得に対する動機付けを行う。
- 国家資格取得をめざしたモチベーション向上を目的に、アドバイザー教員との定期的な面談等を実施し、自身のキャリアプランを明確化できるよう学生サポートに取り組む。
- 学年進行に合わせて医療専門職業人となるためのマナー講座、文章書き方講座や授業外活動などを実施し、社会人基礎力の強化と社会性の獲得に取り組む。

2. 研究体制

(1) 学内の各種研究助成による研究支援



- 学術研究及び教育振興奨励基金、国内・在外研究員制度等、各種研究助成の制度によって、本学における研究活動の充実を推進する。
- 大型の外部研究資金の獲得も視野に入れ、各種研究助成の目的、助成対象となる研究課題、審査方法等を点検し、適切な運用を図る。

(2) その他の研究助成

- 科学研究費助成事業を中心とした外部研究資金の採択件数増加を図り、公募推奨や情報の収集並びに共有化、申請書類の記述に関するフォロー等、採択に至るために有効な支援策を実施する。
- 研究倫理教育や不正防止も研究助成の重要な課題と位置付け、公正な推進や適切な研究費の使用等、人権の保護及び法令遵守への対応を推進する。

3. 学生支援活動

(1) 学生生活支援

- 学生に寄り添う支援体制の構築のため、学生の状況をきめ細かくフォローし、退学・除籍率の低下を目指す。
- 成績が振るわない学生については、アドバイザー教員や関係部署と情報共有し、本人の必要とする支援が提供できるよう努める。
- 欠席回数が多い学生を早期に把握するため、授業の出欠管理が随時可能となるシステムを導入する。

i) 奨学金事業

- 国が提唱する高等教育無償化制度導入に向け、対象校として選定されることを目指す。
- 2020 年 4 月の国際学部開設に向け、留学プログラムの奨学金制度を拡充する。

ii) 学生寮運営事業

- 老朽化した設備については適時修繕を行い、生活環境向上を図る。要望の多かった食事内容の改善を行うなど、常に学生の要望を取り入れながら改善を図る。

iii) 学生の安全確保

- 後期オリエンテーション時に1年生全員を対象とした避難訓練を実施する。

iv) 学生サービスの充実

- 春季及び秋季に行っている 100 円朝食提供を継続し、学生に朝食をとる習慣を促す。その結果健康的な大学生生活を過ごせることを目指す。
- フィットネスルームの拡充を図り、運動部の学生を中心として学生の基礎体力強化とともに、学生の健康増進を推進する。

iv) 保健センターの運営

- 2019 年度から公認心理師及び管理栄養士の実習開始に伴い、大幅増加が予想される抗体検査数受け入れ態勢を強化する。

(2) キャリア支援

[キャリアセンター]

- 企業等との関係性を強化し、優良企業等の掘り起こしを進める。
- 企業等から得た情報を学生へフィードバックすることにより、就職後のミスマッチを防ぎ、より職場で活躍できる人材を社会に送り出す。
- 卒業生や上級生が下級生を指導するピアサポート体制(同窓・在学ネットワーク)を構築する。



- 大学内で企業採用セミナーを積極的に開催し、学生が可能な限り業界や仕事、企業等の研究ができる環境を整える。

【教職支援課】

- キャリアを活かした就職への意識を高めるため、現任教員や保育士との交流の場を設け、ロールモデルを提供する。
- 中高免の教職課程履修者の教員採用試験準備の支援として立ち上げた学生の自主学習サークル“Teacher’s Café”において、学生の自主勉強会と月に1度の教員指導による集団討論勉強会を実施しサポートする。

4. 学生募集

(1) 学生募集活動

- 高大接続改革を推進し、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜制度の改革を実行する。
- 入学者選抜制度を改革することにより、本学が求める学生像をより明確にし、志願度の高い学生の獲得を目指す。
- 本学の学びをより深くより多くの受験生に知ってもらう機会として、オープンキャンパス、入試相談会、模擬授業等をより強化し、受験生に向きあったきめ細かな学生募集活動を展開する。

(2) 広報活動

- 受験情報誌等の従来型広告に加え、プレスリリースによるマスメディアへの発信やSNSの活用による情報拡散などを更に充実させ、多角的な発信で本学の魅力を訴求し、ブランド力の確立を目指す。

- 2019年度は、2020年度開設を目指す国際学部をはじめ、開設2年目となる医療栄養学部など、「教育で選ばれる大学」としての本学の魅力溢れるコンテンツを発信し、募集活動促進に寄与するよう取り組む。

5. 環境整備

(1) キャンパスの整備

i) 環境の向上

- 経年劣化で老朽化が目立つトイレの改善として、4号館2階・4階・6階の改修を行う。
- 学習環境の改善として、3号館及び7号館の教室設置椅子の改修を行う。

ii) 建物維持管理

- 経年劣化による老朽化が目立つ建物については、適時修繕や改修工事を行い、機能改善に努める。
- 8号館に設置されているエレベータについては、前年度に続きリニューアルによる安全対策を実施する。

(2) 情報インフラ整備

i) 講義室AV機器更新

- 経年劣化による機器のトラブル解消を目的に、3号館の中教室9室をアナログ環境の機器構成からデジタル環境へ更新する。

ii) 情報セキュリティ

- Windows7環境のサポート終了に対応するため、コモンルーム設置パソコンを含めOSのバージョンアップを行う。



2019 年度事業計画

- 外部の攻撃から内部を保護するための機器 (Fire Wall) をより高性能・多機能な機器に更新し、セキュリティの向上を図る。
- 情報漏洩に関する講習会等を実施し、教職員のセキュリティに対する意識向上を図る。

iii) 無線 LAN の拡充

- 自主学习増加による利用者対応のため、コモンルームを中心に無線 LAN 環境の拡充を行う。

6. 地域連携・社会貢献活動

(1) 地域連携・貢献活動の推進

i) 教員免許状更新講習

- 2019 年度は前年度に引き続き受講対象者が倍増する年度となるが、地域の教育界への貢献と卒業生支援のため、免許更新に必要な講習時間の確保と質の担保を図る。

ii) 生涯学習講座

- 2018 年度に東灘区との連携のもと、東灘区民センターで実施した生涯学習講座をふまえ、これまでの公開講座とは違った体系的な連続講座など、地域の就労支援やリカレント教育に役立つよう、内容の充実を図る。

iii) 学生・生徒×社会・企業連携プロジェクト

- 100 周年記念プロジェクトとして、本学学生 70 名とともに、北野異人館 (風見鶏の館) および岡本商店街と連携したプロジェクトの展開を実施する。

(2) 産官学連携

- 甲南病院、甲南大学、神戸薬科大学、甲南女子大学及び東灘区役所の 5 機関による、「東灘次世代医療人材育成コンソーシアム」を設立し、若手医療人材育成の新たなモデルを構築する。
- 教育の成果を地域や社会に還元することを目的として、受託研究、共同研究、寄附講座、奨学寄附金等、産学連携を促進する。

(3) 高大連携

- 今後の入試制度及び教育制度改革を見据え、全学部で甲南女子高校 3 年生対象の講座を開設し、本学の教育理念への理解を求めるとともに、

7. 管理運営

(1) 学園の管理運営体制

- 最高意思決定機関である理事会を主軸とし、理事長が唯一の法人代表者として業務を総理しており、この体制の下で学校教育法、私立学校法等の法令を遵守し、使命・目的の実現に向けて継続的努力を図る。

(2) 職員人事制度

- 課題である「人材育成につながるモチベーションの向上」「人事考課 (評価) の公正性・納得性の向上」を図る。
- 2019 年度は、①新たな等級を設けてモチベーションの向上を図る、②評価方法を変更して人事考課の公正性・納得性の向上を図る、③職員人事委員会の役割を変更する、等の改正を行い、教学を支える事務職員の人材育成を図る。

(3) 労働環境の維持向上

- 働き方改革関連法に対応し、勤務時間管理や長時間労働の抑制、年次有給休暇の取得を促進する。

ハラスメント等人権侵害の防止等、教職員一人ひとりが「活き活き」と働き、教職員力を十分に発揮できる労働環境の維持向上に努める。

IV. 中学校・高等学校

中学校・高等学校においては、「建学の理念」に沿った「新しい時代の甲南女子教育」の実現を目指す。昨年度発足した「魅力ある学校づくりプロジェクト」の報告に沿い、「学力形成」、「人間形成」の各分野について「甲南女子メソッド」(中高6カ年の学びについて、明確な目標設定とそれを実現するための方法をシステム化したもの)の開発、策定、実践を進める。これらは、来たるべき「大学入試改革」(※1)、「新学習指導要領」(※2)が目指す新しい教育への対応を包含するものであり、その取り組みを受験生、在校生・保護者に周知を図る。また、老朽化した施設・設備の改修を図り、新たな教育力を高める ICT 環境の整備にも積極的に取り組む。

(※1)「大学入試改革」: 文部科学省は、変化の激しい時代において、新たな価値を創造していく力を育成するために、「高等学校教育」、「大学教育」、「大学入学者選抜」を通じて学力の3要素を確実に育成・評価する、三者の一体的な改革(高大接続改革)を進めている。「大学入学者選抜」の分野では、大学入試改革として、「大学入学共通テスト」(新テスト)の実施、個別大学試験における「多面的・総合的評価」(調査書・志望理由書・小論文・面接など)の導入を予定している。「大学入学共通テスト」は、現行の「大学入試センター試験」に代わるテストとして2020年度から実施される。マークシート式問題における知識の深い理解と思考力・判断力・表現力を重視した作問への見直し、記述式問題の導入、英語4技能評価にかかる民間の資格・検定試験の活用などを予定している。

(※2)「新学習指導要領」: 新中学校学習指導要領(2017年3月公示)は2021年度から全面実施(「特別の教科 道徳」は2019年から先行実施)。新高等学校学習指導要領(2018年3月公示)は2022年度から学年進行で実施される。2019年度中学入学生が新・高等学校学習指導要領の一期生にあたる。

1. 教育課程

- 新学習指導要領に沿った教育課程の編成については、中学校課程、高等学校課程ともに今年度中に基本形の完成(大学入試改革の進展によって改訂の可能性あり)を目指す。
- 編成にあたっては、「魅力ある学校づくりプロジェクト」の報告、および「新学習指導要領」に沿った新しい学力観を考慮しながら進める。
- コース(スタンダード、S アドバンス)ごとの独自性について考慮した教育課程を編成し、コースブランディングの確立を目指す。

2. 授業力向上

- 教員一人一人が教科力を高めるとともに、各「教科」の組織力を強化し、生徒の学習状況の共有や教科内研修などの充実を図る。
- 教員相互の授業見学や授業アンケートなどを有効活用するとともに、AL(アクティブラーニング)、ICT活用(※)に積極的に取り組む。

(※)「ICT」: Information and Communication Technology(情報通信技術)のこと。IT(Information Technology)とほぼ同義の意味を持つが、コンピュータ技術の活用に着目する場合「ICT」を用いることが多い。



3. 総合学習

- 本校の教育方針「自学創造」は、自主的学びに通じるもので、特に総合学習(中2 平和、中3 保育実習、高1 探求)において実践を重ねる。
- 「魅力ある学校づくりプロジェクト」の報告に沿って、6 か年を通じて表現力・発信力の育成を図り、対話と協働を重視した教育内容をより一層充実させる。
- 将来の大学等での学び(研究)に活かせるよう、学ぶ・書く・調べるなどのスキルを身に付けることを意識して学習を進めていく。

4. 生徒指導

- (1) 建学の精神「まことの人間をつくる」に基づき、挨拶・清掃・整理整頓・無遅刻など、社会生活上の基本となる人間教育を平素の学校生活の中で徹底する。
- (2) 教育方針「全人教育」「個性尊重」「自学創造」を体現するため、生徒指導上の情報共有・共通理解を徹底し、こころの教育の充実を図る。
- (3) 「いじめ対策委員会」を機軸として不登校やいじめなどに適切に対応でき、生徒が安心して通学・成長できる環境の維持・向上に努める。さらに、教育相談委員会、担任、学年団、生徒指導部、養護教諭、スクール・カウンセラーが相互に密接な連携を図り、問題の早期発見・早期対応に努める。
- (4) 生徒の安全対策として、登下校時の見守りや、部活動で遅くなった場合の集団下校を徹底する。また、防災・避難訓練、救命方法の講習などを実施する。
- (5) 部活動をとおして、組織の一員としての役割や人間関係のありようを学ぶ。また、技能の研鑽をとおした自己実現の場として、学習との両立を図る。
- (6) 学校行事や生徒会活動など、学年・コースの枠を超えた生徒主体となる活動をさらに充実させ、自立した女性を育てる。

5. 国際交流

- 生徒の異文化理解の一助となるよう、多岐にわたる国際交流の場を計画する。
- 新規事業としては、シンガポール・南洋女子高校への中期留学と来日ツアーの受入れ、韓国・培花女子への中期留学導入を予定している。
- 2020 年にはドイツ・ボニーとの中期留学の形状で、交換留学を再開できるよう互いのニーズを確認していく。
- 留学を希望する家庭には、事前に親子ともに外国人生徒の受入れ経験が大いに価値のあることを周知する。

■2019 年度留学日程一覧

		留学先	留学期間
協定校送り出し	中長期留学 (S1~S2)	セント・マーガレット(2名)/オーストラリア	2019/7/14~9/15
		南洋女子(2名)/シンガポール	2019/8/4~8/31
		クイーンズウッド(1名)/イギリス	2019/8月下旬~2020/7月上旬
		培花女子(2名)/韓国	2019/8/15~9/15
協定校受け入れ	短期留学 (J3~S2)	カナダ研修/カナダ	2019/7/25~8/7
		南洋女子(20名以内)/シンガポール	2019/8/22~8/27
		交換留学	セント・マーガレット(2名)/オーストラリア 2019/9/29~12/1
学外プログラム	夏期 個人留学	学校訪問来日ツアー	南洋女子(20名以内)/シンガポール 2019/6/2~6/7
		受入れ協力(甲南高校姉妹校)	ハワイ ル ジャルダン/アメリカ 2019/6月上旬~中旬(未定)
		受入れ協力	YFU 国際交流財団 2019/6月下旬(未定)
		学校訪問来日ツアー	シドニーガールズスクール/オーストラリア 2019/9/27日~10/3日
		学校訪問来日ツアー	培花女子/韓国 2020/1月下旬または2月(未定)
		短期留学(J1~J2)	LA 語学研修/アメリカ 2020/3月末 (補習期間終了後)出発・約9日間
学外プログラム	夏期 個人留学	Bell-Bloxham/イギリス	2019/7/28~8/10 2019/8/11/~8/24
		Bell-Wellington/イギリス	2019/7/31~8/13
		Bell-Leys/イギリス	2019/7/31~8/13
		Bell-St. Albans/イギリス	2019/7/21~8/24
		International House/イギリス	2019/7/31~8/13



6. 進路指導

- (1) 基礎期における学習習慣の確立を目指す。
 - 本校での学習方法のスタンダードを明確にし、基礎期にその定着をはかる。
 - 「手帳」を有効に利用し、自律した学習習慣を身につけるよう指導する。
- (2) 充実期における「キャリア教育」の充実をはかる。
 - 総合学習・道徳などの時間と連動して「キャリア教育」を推進する。
 - 大学と連携して、授業体験などの実施を計画し、生徒の参加を促す。
- (3) 「大学入試改革」(※1)への対応の充実をはかる。
 - 国公立大学推薦入試、AO 入試に関する情報の収集と分析を行う。
 - 各学年との情報共有を密にする。
- (4) 教科指導の充実
 - 新学習指導要領に向けた教育内容・方法などの研究を促進する。
- (5) 甲南女子大との連携強化
 - 高校生だけでなく、中学生にも大学での学びを体験できる機会を設ける。

7. 生徒募集対策

- ホームページや学校説明会、オープンスクール、校外説明会や様々なメディアを利用して、本校の充実した教育環境や積極的な取り組みが伝わるよう発信する。
- 2018 年度から取り組んでいる生徒による 100 周年記念委員会の活動をさらに積極的に進め、「100 周年」の周知とともに、生徒の意欲的な活動を伝えていく。

8. 施設・設備

- 施設・設備の改修を図り、新たな教育力を高める環境整備に積極的に取り組む。
 - (1) 運動場の人工芝化(100 周年記念事業)
 - (2) CALL 教室など PC 教室の改修(ICT 化の推進)

以上